

愛媛県歴史文化博物館

No.53

歴博だより

Museum of EHIME History and Culture's News

平成19年度テーマ展

おひなさま



御殿飾り（曲水の宴）／当館蔵

西条藩松平家のひな飾りや明治天皇・皇后の変わり雛まで、多彩なおひなさまを桃の節句にあわせて公開します。春のおだやかな一時、おひなさまに会いにきませんか。

SPRING EVENT

気分はすっかり「おひなさま」♪

学芸員調査ノート

- 金梨地隅切葵紋花生蒔絵硯箱
- 炭火用アイロン
- 中世の足付土釜
- 御殿飾り

INFORMATION

友の会会員募集
展覧会スケジュール

おひなさま



有職雛（西条藩松平家伝来）／当館蔵

春

の訪れとともに、三月三日のおひなさまを飾る上巳の節句がめぐってきます。上巳の節句は、けがれを祓い人形を流す風習と平安時代の貴族の女兒の人形遊びとが結びついて始まったと考えられています。最初は簡素な人形でしたが、江戸時代に年中行事としてひなまつりが定着すると、次第に凝ったつくりになり、付属の人形も増えて華やかなものになっていきました。

当館では今年もひなまつりを祝って、公家の一条家から嫁ぎ、西条藩九代藩主松平頼学夫人となった通子の雛飾りを中心に展示します。展示室では通子の気品高い有職雛をはじめ、享保雛、古今雛、御殿飾り、明治天皇の変わり雛など多彩なおひなさまの姿を紹介します。また、おひなさまに関連して小さな愛らしい御所人形、加茂人形などの様々な人形や、台所道具、ままごと道具もあわせて展示します。

さらに、今年は家の座敷に組み立てて飾ったと思われる座敷雛風の御殿飾りも初公開します。春のおだやかな一時、博物館の愛らしいおひなさまをどうぞお楽しみください。



明治天皇・皇后変わり雛／個人蔵・当館保管



加茂人形（二股大根持ち）／当館蔵



毛植人形／当館蔵



御所人形／当館蔵

2月19日[火]～4月6日[日]

開館時間 午前9時→午後5時30分（入館は、午後5時まで）

休館日 毎週月曜日
ただし、3月3日[月]開館、3月4日[火]休館

会場 企画展示室・民俗展示室2

観覧料 常設展示観覧料でご覧いただけます
大人（高校生以上）500円（400円）
*（ ）内は20名以上の団体料金
* 65歳以上、小中学生の方などは無料

3/1 [土]
2 [日]

10:00~16:00



体験してみよう!

参加費
無料

じゅうにひとえ き つ たいけん

十二単着付け体験 (要申込・各日10名)

平安時代の貴族女性の衣装「十二単」を着てみませんか?

対象：小・中学生 (身長140cm以上)

時間：午前 (10:00~12:00、一人あたり30分程度)

午後 (13:00~16:00、一人あたり30分程度)

申込方法：

必ず往復はがきに「十二単着付け体験希望」と記載の上、着付けを希望される日 (3月1日か2日)、希望される時間 (午前か午後)、住所、氏名、年齢、電話番号をそえて、2月16日 [土] 必着でお申し込みください。ただし、応募者多数の場合は抽選となりますので、ご了承ください。

〒797-8511 愛媛県歴史文化博物館「十二単着付け体験」係

おひなさまに変身 (先着順・申込不要)

西条藩のおひなさま (女雛) と同じタイプの着物 (袷袴姿) に変身しませんか?

対象：小学生 (身長110cm~140cm) 時間：10:00~16:00

気分はすっかり おひなさま♪

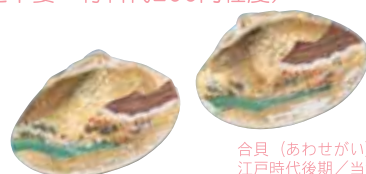


作ってみよう!

貝合わせをつくろう

はまぐりの貝がらに絵を描いて、自分だけのオリジナル貝合わせをつくってみましょう。

(申込不要・材料代200円程度)



貝合わせがい
江戸時代後期/当館蔵

歴博ボランティア 募集!



博物館では、ボランティアを募集しています。歴史が好きな方や人と触れあうのが好きな方、お子さんが好きな方などで、当館で活動を行ってみようと思う方のご参加をお待ちしています。

体験
学習室
だよ



毎月第2・4日曜日の午後は、体験学習室に遊びにきてみませんか? ワークショップでは、季節イベントで行った工作を中心に体験することができます。また、「むかしのおはなし★かみしばい」も同時に行っています。

2月

10日

午後1時~午後3時

「羽子板をつくろう」 (材料費300円)

「コマをつくろう」 (材料費200円)

24日

午後2時~ (約30分程度)

「むかしのおはなし★かみしばい」

3月

9日

午後1時~午後3時

「貝合わせをつくろう」 (材料費200円程度)

23日

午後2時~ (約30分程度)

「むかしのおはなし★かみしばい」

ボランティア活動の内容

常設展示室での一般客向けの展示解説、資料整理の補助のほか、学校団体や子どもたち向けの体験イベント補助などです。

応募方法

郵送・FAX/電子メールでお申し込みください。
※申込用紙は、博物館で直接お受け取りになるか、ご連絡いただければ送付いたします。また、当館のホームページでもダウンロードできます。

お問い合わせ

振興課 企画普及係

TEL(0894)62-6222 FAX(0894)62-6161

歴史・文書

金梨地隅切葵紋 花生蒔絵硯箱

民俗

考古

丁寧に面取りした被蓋造りの硯箱です。蓋表には、金梨地に西条藩松平家の家紋である隅切葵と花生けが肉厚の高蒔絵で描かれ、本体には左に硯と水滴、右に懸子を納めるようになっています。純金粉が大量に使われた最高級品で、個性的で大胆な構図の硯箱です。こんな豪華な硯箱、一体どのような人物が使ったのでしょうか。

使用者は外箱に記された御印により知ることができました。御印とは、身のまわり品や衣裳などに名前の代わりに入れる文様で、皇室でも使われています。別の資料の御印と照合することで、この硯箱が西条藩六代藩主松平頼謙の長女として安永6（1777）年に生まれた鑑姫の所用品であることが分かりました。

鑑姫は琴を山田検校、和歌を清水浜臣、書を加藤千蔭と、それぞれの一流の人物に学んで大名家に嫁ぎますが、二度の離縁を経験します。天保3（1832）年に仏門に入り、水月尼と称するようになり、和歌に打ち込んでいきます。そして、清水光房、本間游清等の歌人との交流の中から、三千首以上の和歌を詠みました。鑑姫の人生を知ること、この豪華な硯箱が和歌に生きた彼女の遺品としてふさしい品に思えてきます。

(学芸員 井上淳)



年代：江戸時代後期
サイズ：縦22.5cm×横21.0cm×高4.5cm
所蔵：当館蔵

歴史・文書

民俗

考古

炭火用アイロン

機関車のような煙突のついたこの道具は、アイロンです。

大正から昭和にかけて保内町内之浦（八幡浜市）で使われていました。取っ手を持って蓋をあげ、中に炭火を入れて、底面が熱くなつてから使います。炭火用アイロン以前の鑊式では、直火で金属自体を熱するため、温度調節が難しかったのですが、炭火用アイロンは、中にいれる炭火の量で温度を調節することができます。また、下の小さな穴から空気が入り、煙突からガスが抜けるため、長時間の使用も可能になりました。なべしきのような台がついているのは、今の電気アイロンと違い、立てて置くことができないうえ、熱い底面を受ける必要があるからです。

衣類の皺を伸ばして整えるためには「熱」と「重さ」、そして「平らな面」が必要です。火熨斗や鑊、炭火アイロンから電気アイロンへと、熱源や形は変わってきましたが、必須条件は今も変わりません。

(学芸員 松井寿)



年代 大正～昭和時代
サイズ (箱) 縦一九、五cm、横二、三cm、高一八、五cm
所蔵 当館蔵

*金梨地隅切葵紋花生蒔絵硯箱は、テーマ展「おひなさま」(2月19日～)にて展示します。
*炭火用アイロンは、学校団体向け学習プログラム「昔のくらし探検隊」で実際に触ってみることができます。

ちゅう せい あし つき ど がま 中世の足付土釜

胴部に三つの脚。これは中世のお鍋で土器でできています。鍋の底は平らで薄いつくりになっています。カマドの床において、直接火をかけたと考えられ、煤が付着しています。蓋はおそらく木製だったのでしょう。当時の人々は、この鍋を用いて煮炊きなどの調理を行っていたのでしょう。

この土釜は、県内最大規模を誇る前方後円墳である相の谷1号墳の墳丘から見つかりました。一緒に完形の土器の皿や坏も複数見つかっています。発掘は約40年前に実施されましたが、このたび博物館で整理作業を実施しました。皿の形は、松山市にある湯築城跡出土の土器と器形が類似していることがわかりました。河野氏となんらかの関係があるかもしれません。

中世には、このような三足土釜や土師器の皿を用いて土地の神様を祭る祭祀がみられることから、相の谷1号墳の上でもなんらかのまじないが行われていた可能性があります。この古墳からは来島海峡を見下ろすことができます。古墳が中世にも利用されていたことがうかがえる資料です。

(学芸員 石岡ひとみ)



土師質土器三足付土釜
出土地：今治市相の谷1号墳
年代：室町時代後期(16世紀半ば)
サイズ：口径22.1cm、高さ27.6cm
所蔵 愛媛県教育委員会

歴史・文書

民俗

考古

ご てん かぎ 御殿飾り

江戸時代、京都や大坂といった上方と江戸ではひな飾りの並べ方が異なっていました。そのことは、江戸末期の風俗考証家、喜多川守貞の『守貞謄稿』に記されています。この本によると、江戸では段飾りが発展したのに対して、上方では、上段に小さな雛の住まう御殿を飾る御殿飾りであったとあります。

このひな飾りは、八代村(現八幡浜市八代)庄屋菊池家に伝わったものです。寝殿造りの御所に似せてつくった御殿は白木づくりで、屋根は檜皮葺風に手で彩色された素朴ながらも王朝文化への憧れが感じられます。向かって左側の紫宸殿を模した建物には、一番奥に内裏雛、手前には三人官女、右側の建物には袴姿の侍を配しています。周りには、隨身、仕丁のほか、高砂をモチーフとした尉と姥の人形も付属しています。御殿を納める木箱の貼り紙から、大坂の人形店より瀬戸内海運を通じて八幡浜まで届けられたことがわかります。

(学芸員 宇都宮美紀)



年代 江戸時代後期
サイズ 幅二一・三cm、奥行五〇・六cm
高さ二二・三cm
所蔵 当館蔵

歴史・文書

民俗

考古

*中世の足付土釜はテーマ展「古墳に納められた品々」(~2月24日)にて展示中です。
*御殿飾りはテーマ展「おひなさま」(2月19日~)にて展示します。

体験学習室からのお知らせ

毎月第2・4日曜日
午後2時～(30分程度)

むかしのおはなし★かみしばい



カチ、カチ、カチ。
もうすぐはじまるよ！

博物館で行っている展示や季節にちなんだお話を選んで、かみしばいをはじめます。今日は何のおはなしが聞けるかな？時間までに体験学習室へお集まりくださいね。

展示スケジュール2008.2-9

2	常設展示： えひめの歴史と文化	2月19日(火)～4月6日(日)	テーマ展 「おひなさま」	3月1日(土)、2日(日) ひなまつりイベント	
3			4月下旬～6月上旬	テーマ展(予定) 「写真が語る 昭和のくらし」 (仮称)	5月3日(土)～6日(火) こどもの日イベント
4				7月中旬～9月上旬	企画展(予定) 「愛媛と戦争」 —伝えたい戦争の記憶— 平和な未来へ— (仮称)
5		7月	7月		7月
6					
7		9月	9月	9月	
8					10月
9		11月	11月	11月	

※都合により、行事や展示、日程などについては、変更・中止される場合がありますのであらかじめご了承ください。

歴史文化博物館友の会



3月1日より

平成20年度 新規会員募集します。

友の会は、愛媛の歴史や民俗について、学び親しむ人たちの集まりです。

[会員特典]

- 常設展が無料になります。
年2回開催予定の企画展も無料。
- 会報や歴博だよりをお届けします。
友の会や博物館のイベント情報もお届けします。
- 友の会主催事業に参加できます。
現地学習会や研修旅行、企画展解説会などを開催。
季節イベントの材料代などが無料になります。
- 博物館の刊行物の割引があります。
- クラブ活動を実施しています。
民俗・考古・パソコンの3クラブが活動中。
気になる分野をより深く学ぶことができます。

[入会方法]

1. 会費をご持参の上、歴史文化博物館に直接お申し込み下さい。
2. 郵便振替払込取扱票に、名前、住所、電話番号、会員の種類を記入の上、郵便局で会費をお振り込み下さい。
口座番号 01610-0-45873
愛媛県歴史文化博物館友の会
(ご入金を確認後、会員証をお送りします。)
(友の会事務局) 電話 (0894)62-6222
年会費(4月～翌年3月)

【小中学生会員】	500円
【高校生会員】	1,000円
【大人会員】	3,000円
【家族会員】	4,000円
【賛助会員】	10,000円

Museum Calendar 2008.2-3

●休館日

2月							3月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
*	*	*	*	*	1	2	*	*	*	*	*	*	1
3	4	5	6	7	8	9	2	3	4	5	6	7	8
10	11	12	13	14	15	16	9	10	11	12	13	14	15
17	18	19	20	21	22	23	16	17	18	19	20	21	22
24	25	26	27	28	29	*	23	24	25	26	27	28	29
*	*	*	*	*	*	*	30	31	*	*	*	*	*